

「どんぐりの旅立ち」

ドングリのなる森を子供の未来に贈る会

事務局 脇 真佐男

1. はじめに

私共の会も発足して早5年が経過しました。この間、様々な会員の様々な心情を集積しながら試行錯誤し、少なからず活動も前進してきているところです。

まず、活動の基本方向から見つめてみると、自然環境を言葉では重要視しながら行為としては軽視する今日の風潮に一石を投じたいという基本的な方向にはすべての会員が賛意を示すものの、それを具体化させようとする時の活動対象や活動方法には「十人十色」の意見が発せられ、その絞り込みに多くの時間を費やしてきました。活動地域としては、鈴鹿山系および愛知川流域を対象としているものの、人の生活にどういう役割を果たしているのかという生活レベルとの接点をも視野に入れながらの活動となるよう心掛けています。以下、具体的な活動を振り返りながら整理することとします。

2. ブナ林保全活動について

今、ブナ林は全国的に注目を集めています。「日本の文化と自然の原点あるいは象徴」ともいうべき位置を与えられているのではないのでしょうか。「天然のダム」と言われる保水性や豊かな動植物を育む林として、そして何よりもその樹形美に魅せられて私達もこのブナ林に注目してきました。ところが、このブナ林も鈴鹿山系ではほとんど姿を消してしまっています。古くから人の出入りが多く、薪炭製造用林として盛んに伐採が繰り返されてきたこの鈴鹿山系では、ブナのように伐採に弱く薪炭原料としてあまり向かない樹種はその姿を消されてしまう運命にあったからです。今日まで残る鈴鹿山系内のブナ林の内、多賀町今畑地区と永源寺町君ヶ畑地区のブナ林の保全活動に重点的に取り組んできました。

(1) 多賀町今畑のブナ林の場合

残念なことに、このブナ林は私達の努力がいまひとつ不足したためか一部が伐採されることになってしまいました。このブナ林は、今畑集落（廃村）の後背地に所在し2～3ヘクタールの広さがあります。集落の裏地にもかかわらずこの林が残った理由は、集

落への土砂崩壊を防いだり、自家用まきの採取場として残されてきた結果ブナ林として残ったものです。林の所有形態は、幾人もの個人所有になっていて、それぞれの利用状況によって、樹齢200年前後のものや数十年のもの、一部スギヒノキ林に転換された所など様々な林がモザイク状に入り乱れています。この中でも最大級のものを含む核心部分はA氏が大部分を所有しています。偶然な出会いからこのA氏と当会の会員との付き合いが始まり、自然観察会やA氏宅での宿泊ハイキングなど数多く重ねてきました。しかし、植林による山の経営というA氏の価値観を別のものに変えてもらおうという当会の考えを受け入れてもらうことは出来ませんでした。林業経営だけが山の価値ではなく、今日においては「自然観察の森」「ハイキングの森」としての新たな価値も生まれていて、「トラスト」のような土地の購入や借地権の設定等についても打診を行ないましたが折れ合う所までは到りませんでした。また、四手井綱英氏にも説得をお願いし、日本文化の発祥地としての意味合いや世界的な広葉樹の減少が近い将来ブナのような日本の広葉樹の価値を著しく高めることなどを以て伐採中止要望を行ないましたが成果を上げることは出来ませんでした。A氏自身苦悩の結果の結論ということであり、山を暮らしている人にはその人の考えがあり、街や里に暮らす者の山への思いとは相違が生まれることは当然です。今回のブナ林伐採によるスギの植林はたいへん残念なことではありますが、こうした相違を前提に置きながら、今後とも、山への様々な価値観を様々な角度から見つめ、織り上げていこうということで活動を続けていきます。

(2) 永源寺町君ヶ畑の場合

こちらのブナ林は鈴鹿山系の最高峰である御池岳近くの標高800mの尾根上にあります。君ヶ畑地区有林で面積は30a余りしかありませんが高原的雰囲気を持つ素敵な所です。数年前から山登りハイキングを重ねてきましたが、造林公社による植林計画が持ち上がり自然観察林としての保存を君ヶ畑地区あて提出するなど要望活動を行なった結果植林対象区域から除外されることになりました。今後の活動として、観察会やハイキングを催すだけでなく地元の方々との交流を深め地域のブナ林として位置付けられるような活動を行なっていきたいと考えています。

3. ゲンジボタルの生息環境保護についての活動

初夏の夜空に飛び交う緑光線。水の妖精のように乱舞し、時にはクリスマスツリーの飾

りのようにピカッ、ピカッときらめき光る虫たちに心を打たれ、魅了された人は多い。時には、感動の共有が愛を育むという「ホタル伝説」を唱える人さえいる。しかし、このゲンジボタルも河川や小川のコンクリート化や汚れのため今では極少なくなってきました。ところが、一昨年八日市市内を流れる蛇砂川にこのゲンジボタルが大発生しました。

ゲンジボタルはどちらかと言うときれいな水の流れを好む昆虫です。「春の小川はさらさらながる」という歌に出てくるような小川に生きる生き物です。当会では、このゲンジボタルの生息環境を守ることが人と生き物の触れ合いの場所を確保することになり、命の大切さを学び取る「遊び場所」にもなり、人々に心の感動を与え、より豊かで住み良い環境を作り出すことになると考え、趣旨を同じくする「蛇砂川ほし虫の会」「八日市グリーンパトロール隊」と協力し合い保護活動に取り組んでいます。

(1) 関係行政機関への陳情

蛇砂川は古くから洪水を引き起こす常習河川として流域の人々を苦しめてきました。周辺の水田より河床の方が高い位置にある天井川であるばかりでなく、上流部よりも下流部の方が川幅が狭くなっているため、絶えず氾濫を繰り返してきました。また、今日では、排水用河川としてしか利用されていないため、周辺地域の人々にとっては「やっかい者」視されてきた歴史を持っています。こういう性格を持つ川なので、当然河川改修が行なわれてきました。下流域での広幅化、中流域での分流用新川建設、上流域での分流水路の建設などの改修計画が徐々に進行していますが一部用地買収に手間取っていることもあって工事完了までにはまだかなりの時間が必要と言われています。

こういう歴史と現状を持つ川での保護活動には困難もつきまといます。ホタルの保護を強調しすぎると「人の命とホタルとどっちが大切なのか」という反論が返ってきて流域住民の理解を得られなくなります。そこで、私達の本意でもあります「人とホタルの共生」に重点をおいた活動を行なっています。具体的には次のことを八日市市および滋賀県（土木事務所）に陳情しました。

- ① 現在自然発生している地域のホタルの生息環境を保護すること。
- ② 天井部分の切り下げ工事の改修にあってはホタル護岸工法を採用すること。
- ③ 今後の河川改修にあっては生態系専門家と協議を行なうこと。

こうした陳情の結果、河川内に群生するツルヨシなどの草刈り時期や上流から流下堆積した土砂ならし工事について継続的に関係行政機関と意見交換を行なうなどによりゲンジ

ボタルの生息環境を維持することが部分的ながらできました。

(2) 今後の対応

今後、大規模な河川改修への対応策の検討などの課題が山積していますが、ホタルの飛び交う時期での観螢会はもちろんのこと、幼虫時期の観察会などを催して流域での関心を高めたいと考えています。

4. 愛知川河辺林の保全活動について

かつて、「あばれ川」として人に恐れられ「ビワマスの遡上する川」として愛されてきた川が、鈴鹿山脈から湖東地方を一気に流下する愛知川です。この愛知川河辺林は、この川の中流域から下流域にかけての兩岸を、ある所はケヤキ林ある所は黒松林またある所はマダケの林というように帯状の林を延々と20km程に渡って横たえていて、地域の景観に潤いを与える重要な位置を占めています。植物学的には、暖温帯性のナラガシワやカゴノキと冷温帯性のシナノキが共生する貴重な平地林であり、各種の蝶類や甲虫類が生きていて、子供たちの大切な遊び場所になっています。

この愛知川の河辺林もかつては炊事や風呂炊き用材の採取林として利用されてきましたが、今では顧みられることもなく、ゴミ捨て場にさえなっています。そこで、当会では、地域の人がこの林を再認識し、生きた林として再生させるべく様々な活動に取り組んでいます。

(1) 流域行政機関への保全要望

愛知川は2市6町に面していて、一口に河辺林と言ってもそれぞれ様相を違えているので、それぞれに合った要望を行なっています。特に貴重種の集中する地域にあっては所有者への面接を含めて活動を行なっています。

(2) 自然観察会など

自然観察会もこれらの林を会場に幾度も開催しています。樹木に名札を付けて親しみのある林を演出したり、散乱するゴミを拾い集めるなど林への親近感を高める活動を行なっています。

5. おわりに

以上、主だった活動の概要のみを報告しました。これら以外にも様々な観察会や活動を

日々行なっていますが、課題も多く抱えています。現在の活動が、多くの会員の集約された活動になっているとは言い切れませんし、活動の展開は、会員個々人が持っている心情を活動に結び付けられるような形に仕上げているため、活動の幅が広くなり、外部からみた場合「捉え処のない会」という見方も出てきます。ブナもあればゲンジボタルもある。河辺林もあればハイキングもあるというように活動が分散的になり、根付いた活動に仕上げていくにはメンバーも不足がちです。

しかし、滋賀の湖東地域の自然状態は史上最高の速さで変貌してきています。活発な工場誘致政策や、水田の圃場整備事業、住宅開発や行政機関による各種施設の建設など未開発の林地や小川が次々と消え去っています。こうした動きに対して、私達の活動は微々たるもので、言葉としては共感を得、理解されても動きの中にまで取り入れられるには絶えざる働きかけが必要です。澄み切った大気、清らかな水の流れ、生命豊かな森や林こそが私達の生きる生命環境を守り続け、地球に生きるすべての生命の永遠の生きる場所であることを確信し合いながら、今後とも活動を続けていくことを誓い合っています。



「多賀町今畑のブナ林にて」



「八日市市今崎町 十年森にて」